

舟運は蛇行を利用

川は蛇行する。水は高所から低所に流れる。これが「自然の原理」だ。

昨年も、各地で水害が多発した。荒川や新河岸川は大丈夫だろうかと気になり、新河岸川の蛇行の様子を探つてみた。

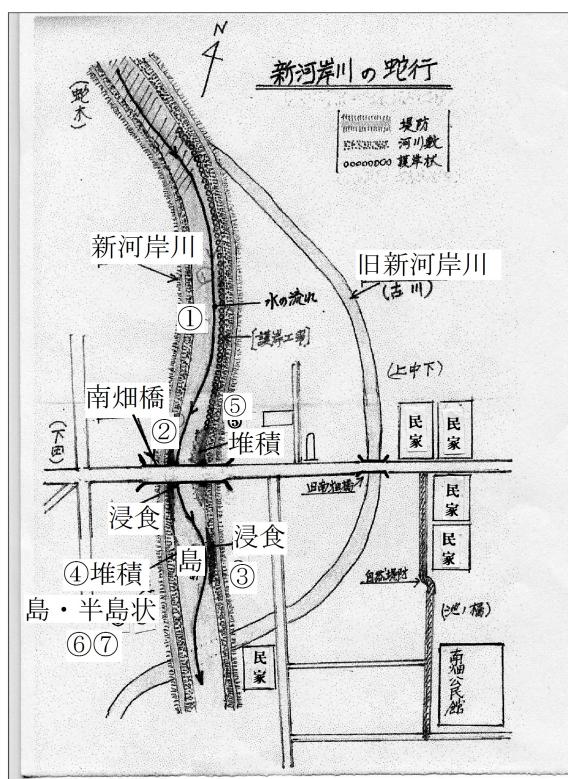
またまた蛇行が・：

だが、真っすぐにはずしの橋下は、やや堆積気味(⑤)で出っ張っている。流れ

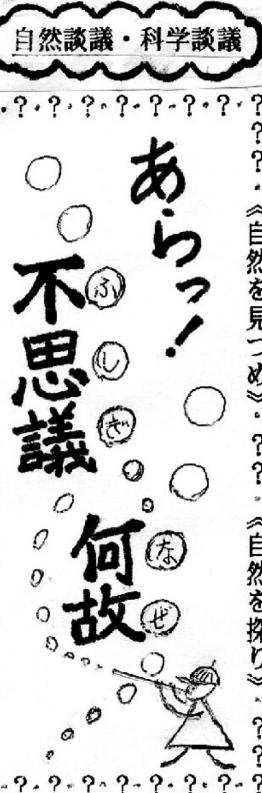
九月一日は防災の日。
昔の新河岸川は、左右に大きく蛇行していた。その流れをうまく利用したのが舟運だ。その後、洪水が多発したため、ほぼ真っすぐに改修した。だが、最近、また蛇行が始まっている。南畠橋周辺の上流と下流だ。まず、その現場を見て、なぜ蛇行するのか考えてみよう。

自然の蛇行をうまく利用したのが、新河岸川の舟運だ。緩やかな流れ、水量の豊かさ、大量輸送ができるなど、水上交通に最適だつた。それを整備したのが舟運だ。だから、川越から江戸浅草までカーブが多く雨ごとに水害をもたらし、周辺住民を苦しめた。

そこで、大正中期から昭和にかけ、ほぼ真っすぐに大改修したのだ。



川は蛇行する



NO. 17 (通算17)

絵・文・題字 渋谷 一夫

の真ん中に、大きな塊が鎮座しているのもそのためだ。その下流の川の真ん中は、土砂が堆積して島ができる。

半島状の突起(⑦)も見える。だ。その先には堆積物でか、

25年と28年の写真で比較してみた。大分、変化しているのが分かる。

昔の川は深かつた

行を始めている。その様子を、「南畠橋」周辺で探つてみた。

橋の上から上流を眺める

水流で崩壊した場所は、

と、左岸(東側)の河川敷には護岸工事がしてある。水量が増すと、水流は勢いよくここにぶつかり(①)反対

の右岸に向かう。すると右岸(西側)の河川敷が水勢で削られる(橋脚のすぐ上流②)。その流れは、更に下流

たりし、川の流れを管理していた。それが、今は排水の大変、水害の元になる。注意が必要だ。

浸食・堆積の一部を、平成

川底をさらつたり、藻を刈つたが浚渫船は来ない。残念だ。

昭和前期の川は、2m前